
チーム医療による血液透析患者のリン吸着剤(PB)節減の試み

医療法人衆和会 長崎腎病院

○池田康平 吉野秀章 山下万紀子 江藤りか 小峯真耶 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 橋口純一郎
原田孝司 船越 哲

【目的】

血液透析患者の高リン血症は深刻な問題である一方、各 PB も比較的高額な薬剤であり、リン値を適切に保ちながらPBを節減することは今後切実な課題と考える。我々は今回 PB 節減のためのプロジェクトチームを作り、有用性を検討した。

【方法】

2014年11月から2019年11月で、PBを内服している当院外来透析患者を対象とし、多職種による11名のメンバーで、服薬調査・資料の配布・内服に対する意識調査や食事指導などの啓発活動を繰り返し行い、PB処方量、血清リン値の追跡を行った。

【結果】

研究開始時の患者一人当たりのPB処方量は平均163.0錠/月であったが、徐々に低下傾向となり、PB処方量は平均135.4錠/月に有意に減少した。また、血清リン平均値は5.4mg/dLから5.2mg/dLに有意に改善した。

【考察】

今回の方法にて5年間でPB処方量・血清リン値が低下したことより、PB節減のために多職種から構成されるチームで取り組むことは効果的と思われた。